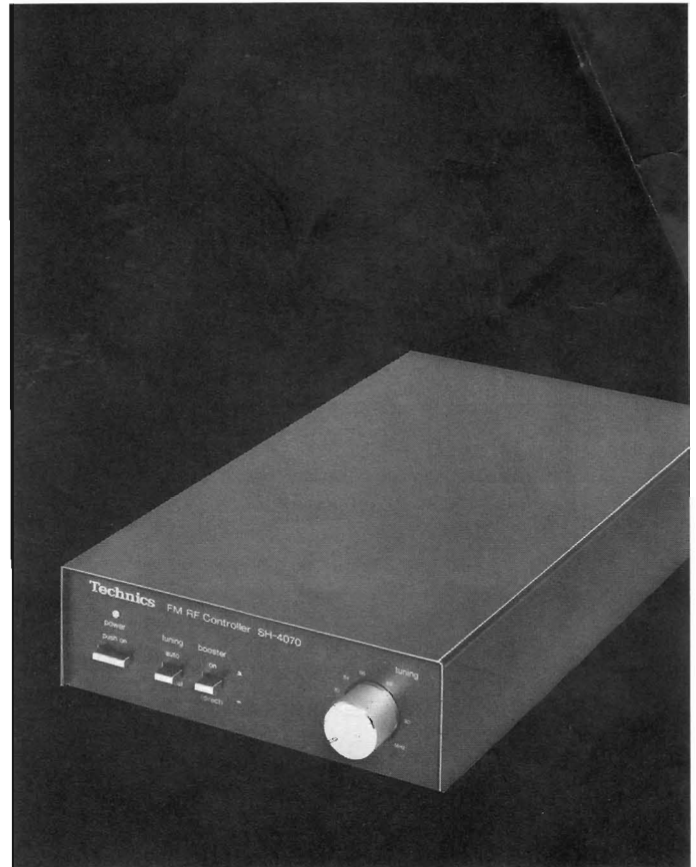


Technics

FM RFコントローラ

SH-4070

取扱説明書



- ご使用前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 保証書(別添)はお求めの販売店からお受取りのうえ、内容をよくご確認いただき、後々のためこの説明書とともに大切に保存してください。

上手に使うって上手に節電

音量は必要以上に大きくしないで、ご使用後は、忘れず電源を切って！

松下電器産業株式会社

このたびは、Technics の FM RFコントローラ SH-4070 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

アフターサービスについて

1. 保証書 (別に添付してあります。)

保証書は販売店からお渡し致しますから、必ず「販売店名・購入日」等の記入をお確かめになり、保証書内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

保証期間—お求めの日から1年間です。

2. 保証期間中に修理を依頼されるとき

もう一度取扱説明書をよくお読みいただき、ご確認のうえ、なお異常のあるときには、恐れ入りますがお求めの販売店まで保証書を添えて製品をご持参ください。

保証書の記載内容により、販売店で修理致します。

3. 保証期間経過後、修理を依頼されるとき

お求めの販売店に、まずご相談ください。

修理により製品の機能が維持できる場合には、ご要望により有料で修理致します。

4. 保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明な点は

お求めの販売店又は最寄りの「ご相談窓口」(別紙ご参照)にお問合わせください。

付属品

- 75Ω 同軸ケーブル(3C-2V)…………… 1
- F型プラグ・リング(3C-2V用)…………… 各1

操作部の名称と使い方



① 電源スイッチ/電源インジケータ (power)

押し込むと(■→■)電源が入り、インジケータが点灯します。

② チューニングモードスイッチ (tuning)

auto (■→■) :

Technicsクォーツシンセサイザチューナ(ST-S8, ST-S4他)をご使用の場合は、この位置にする。

manual (■→■) :

Technicsクォーツシンセサイザチューナ以外の一般のチューナをご使用の場合は、この位置にする。

使用時のご注意

■ チューニングつまみの目盛

使用するチューナにより多少の誤差が生じますので、一応の目安としてください。

■ Technicsクォーツシンセサイザチューナ(ST-S4等)でプリセットメモリーをオート(自動)とする場合

1. ブースタ オン・オフスイッチを必ず「off」(■→■)にしてください。
(ノイズ成分がメモリーされることがある。)
2. またTechnicsウイングアンテナをご使用のときは、チューニングモードスイッチを必ず「auto」(■→■)にしてください。
(チューナとウイングアンテナを連動させるため。)

■ 使用する75Ω 同軸ケーブルは (短く太いものが理想です。)

1. FMアンテナの設置場所は、雑音源から離れた高い場所が最も望ましく、またチューナとアンテナ間の同軸ケーブルは短く太いものをご使用ください。
2. 入出力のケーブルは、からみ合わせないでください。弱い局が受信できなかったり、チューナのシグナルメータが振れる等の症状が現われることがあります。

③ ブースタ オン・オフスイッチ (booster)

オン (■→■) :

通常はこの位置でご使用ください。この位置では、本機の機能が発揮され、FM放送の送信所が遠いときや山間部等で、入力信号が弱くチューナのFMステレオインジケータが点灯しない場合には非常に効果があります。

オフ (■→■) :

入力信号が強すぎて隣接局が混入したり、またS/Nが悪化(チリチリというノイズが出たりする)場合は、この位置にする。

④ チューニングつまみ (tuning)

FM放送局の周波数を選局するつまみです。Technicsクォーツシンセサイザチューナをご使用の場合で、チューニングモードスイッチを「auto」にしている場合は、このつまみを操作する必要はありません。また一般のチューナをご使用の場合は、チューナとこのつまみの両方で最も感度のよい位置を捜してください。

使 い 方

- 本機の周波数同調は、Technicsクォーツシンセサイザチューナ使用時には自動的に行われます。
- また本機にTechnics FMウイングアンテナ (SH-F100他)を接続の場合、アンテナの周

- 波数も電子同調回路により自動的に同調します。
- 一般のチューナと組み合わせる場合は、チューニングつまみにより手動同調 (マニュアル) してください。

1 アンプ、チューナを

FM放送の受信できる状態にする。

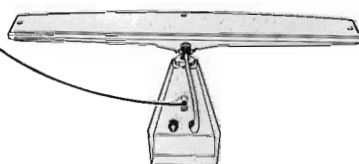
2 Technicsクォーツシンセサイザチューナをご使用の場合で、

チューナにFMアンテナ切換えスイッチがある場合は、そのスイッチを「同調型」または「TUNED TYPE」にする。



3 Technics FMウイングアンテナを

ご使用の場合で、アンテナにモード切換えスイッチがある場合は、そのスイッチを「auto」にする。



4 電源を入れる。

(→)



8 最も感度の良い位置を捜す。

(一般のチューナをご使用の場合は、チューナと両方で調整し、最も感度の良い位置を捜す。)

7 「on」(→)にする。(入力信号が強いときは、「off」にする。)

6 Technicsクォーツシンセサイザチューナをご使用の場合：「auto」(注)(→)にする。 一般のチューナをご使用の場合：「manual」(→)にする。注。

注。
「manual」でも使えます。
この位置で多少チューニングをずらせ、妨害波の影響等を少なくできる場合があります。

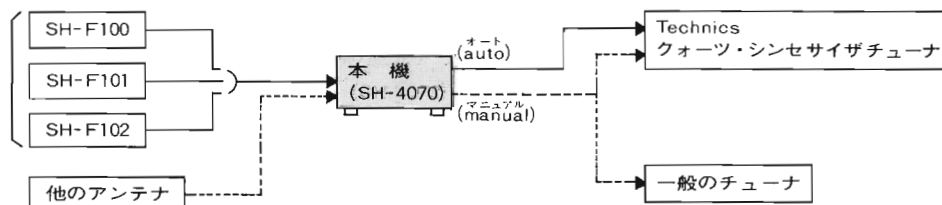
5 放送局を選局する。

(チューニングつまみまたはプリセットチューニングつまみで選局する。)

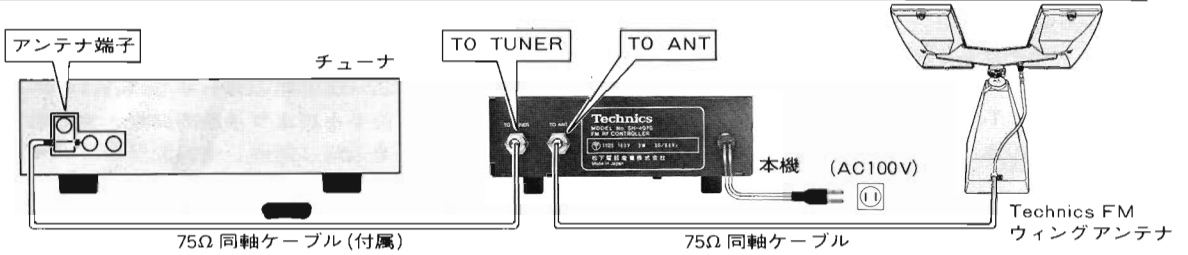
注：ブースタが不要で、電源スイッチが「off」の場合は、必ずブースタスイッチを「off (direct)」にしてご使用ください。

本機との組み合わせ

Technics FMウイングアンテナ

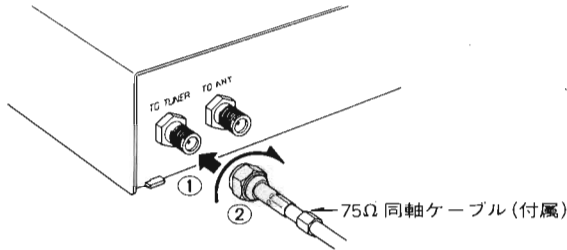


接続のしかた



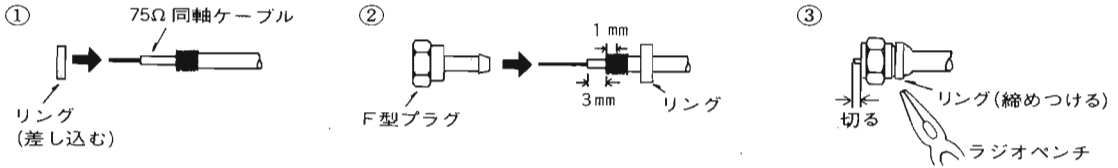
■ケーブルの接続

- ①差し込み、
- ②ねじを回す。



■チューナのアンテナ端子がコネクター式(F接栓)のとき

付属のケーブルの先端にコネクターを取り付けてください。



特長

1. 世界初の周波数同調型RFブースタアンプ。シングル-シングルの電子同調回路で23dB利得。

- ①単一周波数同調型のため、不要電波を増幅せずIMの少ない受信ができます。
- ②チューナのステレオインジケータの点灯レベルが10dBアップ、弱い電波の放送もステレオで聞けます。
- ③近接大信号局にマスクされていた局を聴取可能になる場合があります。
(利得アップの結果、大信号局はチューナのリミッタで飽和するのに対し、小信号局は23dBアップしますので信号強度の差が縮まることとなります。)
- ④S/Nは、不使用時に対して2~3dBアップが期待できます。

2. FMウィングアンテナのリモート設置が可能になります。

電界強度の大きい場所やマルチパスを受けにくい場所へアンテナをリモート設置できます。

たとえば、地上2mの所にあるアンテナを地上6mに上げた場合、電界強度は10dBアップします。これはサービスエリアが距離にして3倍のびたことを意味します(面積は9倍に拡大)。従って本機をチューナの近くに、FMウィングアンテナは電波状態の良い2階へ、その同調コントロールは1階のリスニングルームで、ということも可能になります。

定 格

型	式：電子同調型ブースタ
利	得：23dB
受信周波数帯	76~90MHz
アンテナ入力	75Ω同軸型
ブースター出力	75Ω同軸型
同調方式	マニュアル オート(テクニクス クォーツ シンセサイザチューナ)
電	源：AC100V 50/60Hz
消費電力	3W
寸法(幅×高さ×奥行)	140×55×270 mm
重	量：1.1kg

松下電器産業株式会社 ステレオ事業部

〒570 大阪府守口市松下町2番地 ☎(06) 992-1551

SQF20313
S0381T0